



近藤じゅん子通信 vol.28

近藤じゅん子が取り組んで来た「認知症支援」がさらに手厚く！

第1回定例会・区議会公明党の代表質問より

令和6年2月21日(趣意)

防災

ペットの二次避難について

質問 ペットの災害に備えた対策や体制整備は大変重要です。防災協定を結んでいる専門学校との連携について、今後の方向性を教えて下さい。

答弁 (区長) 本区では、区内のヤマザキ動物専門学校、専門学校ピジョナリーアーツ東京校と協定を締結し、同伴されたペットの世話の代行、相談及び助言、診察の補助、ペット用備蓄の配給支援をご協力いただきます。

加えて、ヤマザキ動物専門学校では、避難所に同伴されたペットの一時預かりもご支援いただくものです。

今後も、二つの専門学校と連携して、同行避難に関する理解の促進、飼い主が備えるべきことの周知啓発に努めてまいります。

学校建て替え時の避難所体制について

質問 広尾中学校、松濤中学校、神南小学校の建て替え期間中、安全で安心な代替避難所の確保は、物資供給の受け渡し場所にもなり得る施設が必要です。

どのように検討されているか、お考えをお示し下さい。

またできるだけ早い段階で地域への周知・徹底を進めていただけるようお願いしたいと思えます。

答弁 (区長) 学校の建て替え期間中は、仮校舎への避難が困難な方が既存校に近い別の施設へ避難が出来るよう、区有施設だけではなく、民間企業の施設も視野に入れ、幅広く代替避難所の検討を行っているところです。

地域への説明については、学校の建て替え計画や工事の説明会、地域の防災訓練などの機会を捉え、できるだけ早期にご説明出来るよう進めてまいります。



グレースーン住宅の耐震助成について

質問 昭和56年以前に建築された建物は、耐震性が十分なものが多く存在します。

能登半島地震を受けて、あらためて耐震の見直しが求められている中、これまで我が会派が要望し続けてきた、耐震診断の対象に入っていないなかった昭和56〜平成12年に建てられたグレースーン住宅の新規耐震診断

の予算が来年度予算編成に盛り込まれました。来年度、全区的に見直し、推進をされる耐震助成について伺います。

答弁 (区長) 木造住宅の耐震診断と耐震改修については、2階建て以下かつ、在来軸組工法の建築物について、これまでの昭和56年5月以前に工事着手したもののから、昭和56年6月〜平成12年5月に工事に着手したもので範囲を拡充し、国や東京都からの補助金を受け、区内全域を対象として助成を実施してまいります。

福祉

補聴器助成の拡充について

質問 これまでも昨年の第1回定例会、また第4回定例会等で、我が会派より補聴器助成の拡充について提案をさせていただきました。来年度予算に組み込んで頂き、大変感謝申し上げます。

令和6年度からの拡充内容を伺います。

答弁 (区長) これまで非課税者に限定していた補聴器購入費の助



成対象者について、東京都のシルバークラスの基準に順じ、課税者の中でも低所得者は助成を受けられるよう対象範囲を広げます。

また、助成上限額については、実際に購入されている補聴器の実績をふまえ金額を増額します。

認知症施策について

質問 渋谷区はこれまで認知症支援事業を大きく前進させてきました。

「認知症基本法」の制定を受け、渋谷区での令和6年度以降の新たな取り組みについて伺います。
答弁 (区長) 専門機関や地域の支援者、事業者等と協議しながら、認知症バリアフリーの推進、就労や社会参加の機会の確保など、認知症になっても誰もが安心して暮らせる地域を目指します。

また、認知症の普及啓発としては、新たに認知症専用サイトを開設し、正しい知識や情報に対するアクセシビリティを高め、情報発信の強化に取り組んでいきます。ほかに、認知症高齢者が行方不明になった際の見守りサービスの強化や、認知症カフェの運営支援など、引き続き各施策に力を入れて取り組んでまいります。



ほかに、認知症高齢者が行方不明になった際の見守りサービスの強化や、認知症カフェの運営支援など、引き続き各施策に力を入れて取り組んでまいります。

デジタルバイド解消事業について

質問 我が会派が提案した「デジタルバイド解消事業」も、スマホの無償貸与とスマホ教室からスタートし、デジタル活用支援員の拡充、またデジタル活用支援員の派遣、マイナンバーカードの申請窓口や、ハチペイの支援にも対応していただいています。

災害時の情報弱者を無くすためにスタートした事業です。年頭に起きた能登半島地震を新たな教訓として、防災アプリの講習会の再度開催や、新たに、各キャリアの安否確認機能の使い方方の講習会など開催していただきたいと考えます。

答弁（区長）現在開催しているスマートフォン講座では、基本換作やコミュニケーションなど初歩的な使い方方の講座に人気が集まり、防災がメインテーマの講座は申込みが少ない状態でした。そのため、来月より、全ての講座のテキストに必ず防災のコンテンツを追加して、どの講座を受講しても防災に関しての知識が身につくようにします。

また、今後は防災アプリだけでなく、キャリアごとの安否確認機能の紹介も盛り込むことを検討

してまいります。

教育・子育て

区立中学校のトイレの洋式化について

質問 現在、区立小中学校の校庭にあるトイレは和式トイレが多く、学校開放や避難所としても利用される事から、子どもから高齢者の方までが利用しやすい洋式トイレの改修が望まれています。学校建て替えまでの間、簡易な改修も含めて、できる限り洋式化への改修を提案します。

答弁（区長）学校の屋外のトイレについては、地域からのご要望も多く、学校建替えロードマップも踏まえつつ、可能な範囲で改修を進めてまいります。



特別な支援が必要な児童について

質問 これまで「未就学児通所施設巡回訪問相談支援」で保育園・幼稚園等への巡回を行ない、寄り添う支援を進めました。

今後多様化する子どもやそのご家族へのサポート体制の強化が重要です。どのような専門的支援が行われたか進捗を教えてください。

答弁（区長）日常の子どもを取り

巻く環境下で一貫性と継続性のある支援を行うためには、本人を中心

に、家庭と保育所・学校などがチームで療育を支えていくことが重要です。このため「保育所等訪問支援」では、保護者と訪問先のコミュニケーションを促進し、チームで支援するための具体的な方策を協働して実施しています。

今後は、教育センターや学校現場との連携を一層強化し、就学前から就学以降も、一貫性と継続性のある支援を行うことで、切れ目のない支援を充実させてまいります。

健康

医療用ウィッグ、人工乳房の助成について

質問 我が会派は昨年の第1回定例会でがん治療中の方へのウィッグ等購入費用助成制度を提案しました。

来年度より助成が開始されることになり、利用を希望されている方がより良い療養生活が送れる一助になればと思います。

今回の助成は医療用ウィッグ・人工乳房の購入助成になります。一人でも多くの方にご利用いただけるよう、丁寧な情報と周知が必要です。助成内容と周知方法について伺います。

答弁（区長）助成内容については、対象品1点当たり 10万円を上限

として、1人につき2点まで助成いたします。

事業の案内については、区ニュースやウェブサイト等により、丁寧な周知に努めます。



子宮頸がんワクチンの男性接種助成について

質問 昨年の第一回定例会で我が会派より提案した子宮頸がん（HPV）ワクチンの男性接種助成の予算が来年度盛り込まれ、早期の対応に感謝いたします。

男女共の接種が進みHPV感染のリスクを劇的に減らすことが出来ると考えます。

今後の対応と周知方法について教えてください。

答弁（区長）小学6年生から高校1年生に相当する年齢を対象に、HPVワクチンを接種する機会を確保し、接種費用を全額補助することで、疾病の予防と集団免疫の獲得を図ります。

なお、本事業については区の広報媒体に加え協力医療機関を通じて周知してまいりますと考えています。



ひとり一人を大切に、皆様の声を区政に活かします。

—— 区政に対するご要望、お困りごと、お気軽にご相談ください ——

渋谷区議会議員 近藤じゅん子

- 総務委員会
- 自治権確立特別委員会副委員長

渋谷区議会公明党控室
TEL. 03-3463-1036 FAX. 03-5458-4962
携帯 090-2221-7507



ホームページ X (旧 Twitter) Facebook LINE